



運転免許返納後のサポートを

高齢者の免許証自主返納について



遠藤 正信 議員



議員
市では近年増加傾向にある高齢者による交通事故の減少を目的に、運転に不安を感じている市民の方が自主的に運転免許証を返納しやすい環境づくりに向けて、高齢者を対象とした支援補助を行っている。現在の免許自主返納の新制度の問題点、また制度の継続等、今後の拡大計画、市では今後どういう対応をしていくのか。

経済環境部長
運転免許自主返納支援については、本年1月から開始し、2月末現在、20人の方から申請が

あった。支援事業では、予約型乗合交通ふれあい号の利用券2万円分を交付し、交通事故の防止、交通安全確保のために実施している。ふれあい号の利用では一定の制約があり、一般タクシーとは利用形態が異なるが、1回の利用料金が250円と低額であることから、市の活性化の一助になることも期待されている。今後も利用者の方から意見を伺い、利用しやすい内容になるよう見直しなどを検討したい。

議員
市には免許取得者はどれくらいいるのか。対象となる65歳以上の免許証を所持している方の人数を伺う。

生活環境課長
30年1月末現在で約4万4千400人。うち65歳以上の方が約1万1千400人、約3割程度になる。

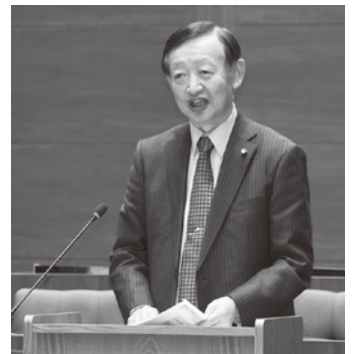
議員
安全性を考えると免許を返納したいけど、交通の便が悪いため返納できない方もいる。隣接する自治体といろんな協定を結んで、常総市との接点をうまく利用して市民が便利に移動できる範囲を拡大する可能性に力を注いでいただきたい。

□ 殿 質 問 JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI □ 殿 質 問



市独自の認定を

常総マイスターの認定について



寺田 洋 議員



議員
国、県でいろいろなマイスターがあると思うが、特にいばらき観光マイスターについて説明いただきたい。

経済環境部長
いばらき観光マイスターは、試験制度になっており、29年2月にその試験を実施し、1010人が受験して576人が合格している。エリアごとに県内の観光地の情報を試験問題にし、一定の基準を合格した方が県からマイスターとして認定を受けている。

議員
私案だが常総マイスター、こ

れを市でつくることを提案したい。市全般の知識を有する方を育成するというもので、観光マイスター同様に市内の観光地、農産物、名産品を知ることがもちろん、市の歴史ある建物、伝統行事などの知識を勉強する。また、市内の工業団地の中には世界に誇れる技術を持つ企業もあり、これを紹介したり知っておく必要がある。このような市全般で知る人を育成する、そのような常総マイスターという認定者をつくれぬか提案したいかがが。

経済環境部長
貴重な提案を受けたので、常総マイスター制度の認定基準や活用方法、養成方法、人員の確保、受け皿となる団体など今後解決しなければならぬさまざまな課題などがあると思うので、情報収集を図りながら調査研究に努めたいと考える。

議員
これから国体、オリンピック・パラリンピックなどの行事もあり、その補助や正式な立場、資格を持っている人がやるという姿勢を見せることによって、世界に誇れるおもてなしの心を持つ市になればと思っている。